



LIFEの実

伊藤千恵さん

大学の時にインドネシアのスンバ島の植林ワークキャンプに参加しました。そこで木々がなくなった状況を目の当たりにし、植物の重要性和一度失ったものを回復させる大変さを痛感しました。

その経験を受けて、より深く植物について学ぶため大学院に進学し、現在は都内の庭園で学芸員として勤務しています。仕事は植物に関連する企画展示を考えたり、来園者に植物の解説をしたり、ボランティアさんと植物の手入れや落ち葉堆肥を作ったり...と、とてもローカルなことをしています。でも、何か始めるときは初心忘るべからず。スンバの荒涼とした大地が緑で覆われることを想像しながら、この仕事は地球環境の保全に繋がるか考えつつ働く毎日です。

インド文化紹介

～「ナートウをご存知か(Do you know "Naatu"?)」～

こんにちは！1997年に第1回インドスタディツアーに参加した小林(旧姓加藤)志帆と申します。私の趣味の1つ宝塚歌劇。世界で唯一女性のみで構成される劇団です。今年のお正月演目はなんと！インド映画「RRR」を舞台化した「RRR×TAKA*R*AZUKA`√`Bheem(アールアールアールバイタカラザカルートビーム)」でした。「RRR」は日本でも人気を博しました。その世界観を宝塚の舞台でどう再現したのか。映画のラージャマウリ監督も絶賛されていました。その構成やお芝居、歌もさることながら、魅惑の高速ダンス「ナートウ」の再現がブラボー！「ナートウ」が「？」な人は是非ググってみてください。日本の宝塚文化とインド映画の融合が素晴らしい！インド文化により親しみが沸いた体験でした。



ご寄付・ご協力ありがとうございます。※2024年4月1日～2024年10月31日まで

- 正会員(個人・団体)21名
- 賛助会員 15名
- 寄付 154名
- きしやぼん募金 19名
- インターンシップ参加 3名
- ボランティア参加 70組

※プライバシー保護の観点から芳名掲載は取りやめております。ご了承下さい。

LIFEへのご寄付は、寄付金控除等の対象です。

編集後記

9月24日の朝、ツアー参加者の皆さんと一緒に帰国しました。成田空港着陸直前、異様なほど機体が揺れてゴンゴンと音が聞こえました。滑走路に入り横に成田空港のビルが見えていていつもならもう着陸しているはずなのになかなか着陸しません。このままだと滑走路から飛び出してしまう、と思った瞬間ゴーア라운드、再び上昇しました。アナウンスによると強風のため着陸できず再度着陸するということでした。以前インドの事業地視察から帰国した時にも千葉県に台風が上陸していて大島上空まで飛行してきたものの着陸できず関空へダイバートしたことがあります。年に何度も飛行機に乗っていますが、いつも安心して飛行機に乗れるのは、パイロットさんの懸命な操縦をはじめCAさんや整備士さんなど航空業界で働くたくさんの方たちのおかげだと思います。いつも感謝しています。 LIFE事務局長 古賀

▼第90号を作った人たち
伊藤千恵、小林志帆、米山敏裕、佐藤静香、古賀麻美

会員を募集しています

- 正会員： 個人12,000円 / 団体20,000円
- 賛助会員： 個人・団体 6,000円
※賛助会員のみの寄付金控除等の対象となります。
※正会員になりたい方は事務局までご連絡ください。



詳細はこちら

マンスリーサポーターを募集しています

- マンスリーサポーターになると...
- 継続的にLIFEの活動をサポートできます。
 - 月々のサポート金額1,000円～。任意の金額を設定できます。
 - クレジットカードからの自動引き落としです。

会費やご寄付の振り込みについて

ご寄付は常時受け付けています。
毎月の引き落としもできますので、事務局までお気軽にお尋ねください。

LIFEへの寄付方法

- 銀行振り込み
- PayPal(バイバル)
- クレジットカード
- ソフトバンクポイント



LIFE寄付ページ

- 直接振り込み場合 → ゆうちょ銀行
019支店 当座 0400590 ゆうちょ同士の場合【00180-9-400590】
特定非営利活動法人 地球の友と歩む会

※領収書の発行を希望される方は、必ず事務局までご連絡ください。

LIFEは認定NPO法人です。LIFEへのご寄付は、寄付金控除等の対象となります。



認定NPO法人 地球の友と歩む会 LIFE/Live with Friends on the Earth
〒102-0071 東京都千代田区富士見2-2-2 東京三和ビル503号
TEL:03-3261-7855 FAX:03-3261-9053 E-mail:life@earth-ngo.jp



地球の友と歩む会/LIFE会報
発行人： 横山計三
発行： 認定NPO法人
地球の友と歩む会/LIFE

No.90 2024年12月発行

LIFE : Live with Friends on the Earth

みらいの樹



スンバ島での給水ポンプの実験が成功しました！！

2015年の構想から9年、ついに念願の給水ポンプの実験に成功しました。丘陵地帯が続くスンバ島では水を汲みに行くことは住民にとってとても重労働です。私たちは村の人たちが水にアクセスできるようにどのようなポンプを作ったらスンバ島に最適なのかずっと考えてきました。これまで、たくさんボランティアさんが関わり知識や資金の提供をしてくださいました。2023年には、村にはない電気や燃料を使わず川の水の流れる力だけで水をくみ上げるポンプを作り日本国内での実験は成功しました。そして、ついに9月、スンバ島に行ってスンバ島の人たちと日本人が協力してポンプを作り川での実験を成功させました。

インドネシア事業報告

報告:古賀麻美
(LIFE職員)

①ポンプ開発ツアー開催

(助成機関:三菱UFJ国際財団、LUSHチャリティバンク)

スンバ島の人たちは低いところを流れる川の水を汲むのに崖を下りたり登ったりしなくてはなりません。水は重いのでとても重労働です。水へアクセスしやすくするためにLIFEは電気や燃料を使わず川の流れて水が汲みあがる給水ポンプを開発してきました。日本での実験が成功し、ついに9月15日から24日まで5人の大学生を含む総勢11人がスンバ島に渡航しポンプの組み立てや実験のボランティアに参加しました。

●ポンプの組み立て

工学系の学生さんたちがリーダーとなりスンバ島の地元の人たちと一緒にポンプを組み立てます。もともと村の人たちが組み立てたり修理できるようにと設計をしたポンプなので、作りが複雑ではありません。言葉は通じなくても、スンバ島の人たちはすぐにポンプの作りを理解し一緒に作業することが可能でした。



参加者の声

「ポンプの作りがシンプルなので現地の人も直感的にポンプの仕組みを理解して、言語が異なる私たちも共同作業が可能でした。」

(日本から参加したボランティア)

「欲しい工具を一つ買うのにお店をいくつも回らなくてはならないスンバ島の状況に驚きました。」(日本から参加したボランティア)

「日本人が来てくれたおかげで、私たちは自分たちの海岸を守る義務と責任があることに気づかされました。」(ワインガブ第三高校の校長先生)

「規律を守ること知られている日本人と一緒に作業できたことは良い経験でした。」(現地の高校生)

●川での実験

3日目に組み立てが完了。トラックに積んで川に運びました。川に設置するとすぐに水車が回転し水が汲みあがりました。実験の村では畑が水面から3メートルほど上にありましたが、問題なくスムーズに畑まで水を給水することができました。日本からの参加者もスンバ島の人たちも大喜びです。まだ耐久性や重量などに課題がありますので、これからも日本人とスンバの人たちが協力してポンプの改善をしていきたいと思っています。どうぞ引き続きこのポンプ開発にご支援をいただけますようお願いいたします。



今回作り上げた3台のポンプ



3メートル上の畑に水が上がりました。

ポンプ以外にも参加者の皆さんが関心のあった伝統家屋と現代の家屋の温湿度の比較実験や住民が使っている水の水質検査もやってみました。



室温調査



水質検査

●国際交流

スンバ島に滞在中はワインガブ第三高校を訪れて生徒さんたちとゲームをしたり、一緒にマングローブの海岸を清掃したりして交流をしました。みなさんすぐに打ち解けて仲良くなりました。



②有機農業研修 (助成機関:アジア生協協力基金)



2024年4月からスンバ島の中ほどにあるレワ地区の村で有機農業研修を行っています。ずっと野菜を作れるようになりたいと思っていた村人たちはとても熱心に研修に参加し、今ではキャベツ、カリフラワー、ナス、トマト、キュウリなどたくさんの野菜を作れるようになりました。特に

インドネシア料理に欠かせない唐辛子の出来が良く、すでに販売を開始し現金収入を得られるようになっています。

その他にも今年度は住民の所得向上を目指し、有機農法によるライム栽培(助成期間:ゆうちょ財団)やキノコ作り研修(助成期間:連合「愛のキャンパ」)も進行中です。

インド関連報告

報告:米山敏裕
(LIFE理事)

REYDSでは設立当初よりトイレの普及を図り保健衛生改善事業にとりくんできました。2017年からのN連事業でのつながりでチェンナイにある日本総領事館が募集している草の根協力事業を紹介され2年前に申請書を提出し、審査が進められていて採択される見込みとなっています。事業内容としてはREYDSのあるサナルパティ郡と近くにあるナットム郡にある2つの病院と10の小学校にトイレを建設するものです。トイレは建設して終わりではなくどのように利用に向かわせるか維持管理を住民ができるかが重要となります。住民が主体的にすすめる手法について日本の大学生が3月に卒論で「トイレの参加型開発」をテーマにて執筆した内容に多くの示唆に富んだ提言がなされています。今後REYDSと連携してトイレ建設事業の進捗を見守っていきます。